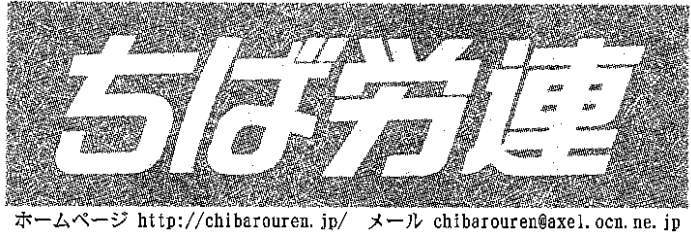


春の地域総行動
基準日：2月13日(金)
春闘大宣伝
日時：2月21日(土)14時～
場所：千葉駅前



第 278 号 URL 版 2015 年 1 月 31 日

発行 千葉県労働組合連合会

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センター

電話 043(225)5576 FAX 043 (221) 0138

発行人 本原康雄 定価 20 円

【1 面】

ストップ暴走政治 まもろう憲法と暮らし 仲間を増やして要求を勝ち取ろう

千葉土建は、2年連続の年間実増をめざして昨年6月から3495人の目標を掲げて拡大行動に取り組んでいます。新しい仲間を迎え入れる「仲間を拡大（ふやす）」と組合が企画する行事や運動への参加者を増やす「参加者を拡大（ふやす）」の2つの拡大（ふやす）を合い言葉に仲間の力を結集させることが通年拡大成功の重要な鍵を握っています。

現場から「賃金上げろ」の声を

7月から8月にかけては「拡大現場主義」と名付けて賃金実態を現場で直接聞き取りながら、現場で働く仲間に「賃金は上がる」「現場は変えられる」という思いを持ってもらう行動に重点を置き、チラシ配布や宣伝カーで現場周辺を宣伝しながら訴えをおこなってきました。多くの現場では「国が賃上げを指導していることも知らない」「実際に賃金も上がっていない」など、公共工事の設計労務単価が2年連続で引き上がったにもかかわらず、現場従事者には行き渡っていない状況が浮き彫りとなりました。今後も県内各地で定期的な宣伝をおこない、従事者の意識改革と同時に現場から「賃金あげろ」の声を強めていくことが求められています。

全県をリードする市原支部

分会がおこなう丁寧な組合員訪問、仲間からの紹介など対象者の掘り起こしをしながら順調に成果をのぼしてきた市原支部。今年の拡大の特徴として、社会保険未加入に関する相談が多く寄せられ、加入に結びついたケースが増えています。国土交通省が2011年に策定した「建設産業の再生と発展のための方策2011」は、厚生年金や雇用保険の保険加入を促進すると同時に未加入事業所に対しては公共・民間を問わず、建設現場から排除する方針を示しています。すでに昨年8月からは、同省の直轄工事での排除がおこなわれています。未加入問題の本格的な指導が強められるなか「相談なら千葉土建」



通年拡大で達成率トップを走る
千葉土建市原支部の仲間

を全面に押し出して勝ち取った成果です。

大運動会で一致団結

2 月 1 日には「2015 年春の大運動会」と称して組合員の 10%を集めようという全県いっせいの拡大統一行動に取り組みます。

次期大会を増勢で迎えるため、仲間と語り合う場を「つくる」、次世代に活動を「つなぐ」、ともに歩む仲間を「ふやす」、3つの視点で一致団結し、目標にむけ各支部が最後まで奮闘する決意を固めています。

2015 春闘方針を決定!

第 61 回評議員会



110 名が参加した旗開き

千葉労連は 1 月 10 日に 15 春闘方針を決定する、評議員会を 15 地域・16 単産、全体で 59 名の参加者で開催しました。

松本議長挨拶と本原事務局長の方針提案とともに、今年は千葉労連結成 25 年であり、戦後・被爆から 70 年、そして春闘 60 年という節目の年でもあり、沖縄県知事選や衆議院解散総選挙の結果を確信に、安倍政権の打倒、大幅賃上げなど春闘勝利で、新たな飛躍の年にしたいという思いが語られました。

評議員の発言を紹介します。

★県医労連～「国民の医療・介護を受ける権利を守ることと医療・介護労働者の労働条件改善の両面を取り組んでいく」★自治労連～「公務員賃金をめぐる緊急的な対応が必要」、★千葉土建～「我孫子市の

公契約条例が 3 月には制定の見通し」★千葉県国公～「賃下げ違憲裁判の報告と官民一体の春闘へ結集」★全教千葉～「教研集会報告と国旗・国歌斉唱問題を国民的な課題の対応として」★八千代労連～「市民集会と地域メーデー開催までの取り組み報告」★全印総連～「中小の印刷業者をつぶさない適正単価の必要性」★千葉労連ユニオン～「労働センター事例報告」★市川・浦安労連～「市川わくわくフェスタ報告」★君津・木更津労連～「オスプレイ反対集会と地域内争議報告」★年金者組合～「官民共同行動やキャラバンなどの具体化が早期に必要」★船橋労連～「労連独自の平和行進の取り組み」など。

方針案は、補強発言を踏まえ、中間決算と共に満場一致で可決されました。

評議員会後に開催された旗開きは、来賓も含め 110 名の参加で成功し、結成 25 年を祝い春闘勝利の意思を確認し合いました。

大幅賃上げを獲得しよう

新春宣伝行動

千葉労連は年明けの 1 月 8 日に千葉駅前で、14 日に海浜幕張駅前それぞれ宣伝行動を行いました。

最初に松本議長が「安倍政権が懲りずに進めようとしているアベノミクスは、大企業・大金持ち優遇で庶民には何の恩恵もない。日本を海外で戦争のできる国にすることを許さず、2015 春闘で労働者の大幅賃上げを獲得しましょう」と訴えました。

その後、各団体の代表者がマイクを握り、職場の状況報告や今春闘に向けての決意を訴えました。

二つの宣伝行動には述べ 38 人が参加し、チラシとティッシュを合わせて 1000 枚配布しました。

チラシを受け取った男性は「生活は全然よくなる。労働者の賃金を上げないといけないと思う」と話しました。

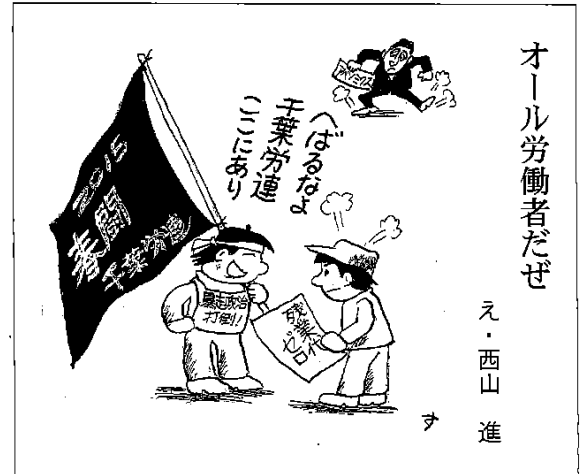


海浜幕張駅前の宣伝行動

波濤

自分の母親は昭和一桁の未年生まれ。今年戦後 70 年ときいて、終戦の年に母親はいくつだったのか

と考えた。というのも終戦の日の青空と安心感を母の口から聞かせてもらったことが心に残っているからだ▼多分十代の頃の母の体験なのだが、自分としては「終戦の日の母の感情」をそのまま受け止め、戦争をしないということが当たり前だという認識につながったと思っている。小学生の頃、夏休みに名古屋での原爆展に連れてってもらったこともあった。恐怖感もあったが、親として、大人として、こどもに向けた生き方に対する無言のメッセージがあったような気がする▼親子の間では、感情も受け継ぐことができるのかもしれない。



【2面】

共同を広げ春闘をたたかおう 千葉労連新春座談会

明けましておめでとうございます。今年の座談会は、2015年春闘に先立ち、医労連の小野寺さん、自治労連の竹内さん、生協労連の鈴木さんに昨年を振り返りながら、2015春闘に向けての抱負などを語っていただきました。

【本原事務局長】

明けましておめでとうございます。今年は、春闘とあわせて一斉地方選挙もあります。そのような中で、どう要求実現できる状況を作っていくか、どうたたかっていくかがテーマになります。単産や職場の中、また政治状況なども含めて、昨年一年間の中で大きな確信になり今年の春闘に引き継いでいきたいことなどを聞かせてください。

賃上げは重要

【小野寺さん】

昨年は、春闘で金額はともかく賃上げすることが重要なんだと、一律 30 円の賃上げを勝ち取れまし



左から本原事務局長、鈴木さん、竹内さん、小野寺さん

た。賃上げを勝ち取るということ自体がすごく大きいことなんだと確認しながらたたかいぬいたということでは、非常に大きな成果も教訓もいっぱいあったと思います。

もうひとつは、年末の総選挙で、私たちの声を代弁していただける力が、議案提案権を得たということが重要な成果だったと思います。2015 春闘では、2014 春闘の成果と総選挙の前進した部分を自分たちの力としてたたかっている春闘にしていければと思っています。

【本原事務局長】

今度の一斉地方選挙で投票に足をむける仲間をどれだけ増やすか。圧倒的未組織の労働者も含めて、政治に大いに関わり参加してもらうためにも、選挙に行ってもらい取り組みを、千葉労連としても議論を深めてやっていきたいと思っています。

外に出る春闘に

【竹内さん】

地方財政が厳しい状況になってきています。そういう中、この間の自治体キャラバンなどの積み重ねの中で、自治体と私たち労働組合が共通できる部分が増えてきて、共同できるということが確信になってきています。

もう一つ、今年の 4 月に、地方公務員の賃金が平均 2% の賃下げが出されています。公務の賃金を下げるということは、地域で働いている人の賃金を下げていくことになるし、地域経済でみたら、圧倒的に消費購買力が落ちていきます。今年の春闘では、民間の春闘交渉に応援に行ったりなど、一步でも外に向かって足がでる春闘にしていきたいですね。民間と一緒に、公務の平均 2% の賃下げのストップをさせていく。このことをやっていかなければ、民間の賃上げにつながっていきません。力を合わせて世論を大きくして、その通りだという世論をこの春闘で一緒に作っていききたいなと思っています。

人手不足は深刻

【鈴木さん】

生協では、非正規がたくさんいる中、昨年の春闘では底辺を底上げしようとたたかい、基本時給 10 円の賃上げを勝ち取りました。が、実際、4 月からの消費税増税などで正規も非正規も実質賃金が下がっている状況です。現場の声としては賃金をあげてほしいというのが一番多いです。もう一つ、人手不足が深刻な状況です。募集をしてもこない。ここ数年で周りの企業の時給が上がっていて、少しでもいい方に流れていっています。そういう点でも時給というのは大きいなと思います。欠員が多く、現場の運営自体もできない状況になっていて、負のスパイラルに陥っている状態ですね。

【本原事務局長】

人手不足や人員不足は、公務でも医療の現場でもありますよね。労働法制の問題でも、さらなる派遣法の改悪をゆるせば、ますます低賃金の労働者が増え、一方でわずかな正社員は、成果での賃金と残業代ゼロ法案が準備されているとなれば、ますます人が定着しないし、何もいいことはない。

【鈴木さん】

低賃金で過密労働をすることで労働者の労働意欲も上がらない。いいことは何もないです。あらゆる意味で労働者の賃金を上げる必要性があると思います。

政治の流れを変える

【本原事務局長】

今度の一斉地方選挙で労働法制改悪を進めるような安倍政権に審判を下して、政治の流れを変えていく。地方政治も変えるし、国の政治の流れも変えるというたたかいが、春闘期の課題だと思います。

【小野寺さん】

政治がどの方向を向いているかというのは非常に重要です。それで全然違ってくる。私たちの声をしっかりと届ける勢力をのばしたいですね。

仲間を増やす春闘に

【竹内さん】

あわせてこの春闘では仲間を地域で作っていききたいですね。たまり場というか相談できる場所があるということ、地域で苦勞している人たちに知ってもらい、労働組合を作っていくことにも、組織拡大

にもつながっていく。そういう点でぜひ、地域労連と共同して、この春闘に取り組みたいですね。

【本原事務局長】

5月に自治体キャラバンを千葉労連として予定をしています。一番大事なのは、行った自治体のところで、地元の労働者の声をどう伝えていくかということです。キャラバンを通じて、千葉労連と加盟組織だけじゃなく共同を広げながら、どう自治体にせまっていくかは一つのチャンスかなと思って、そういうふう成功させたいと思います。

歴史的に言えば千葉労連ができて 25 年がたった中での春闘でもあるし、平和の問題でいえば戦後 70 年という年になる中での春闘です。昨年の総選挙の結果を踏まえれば、新たな条件が広がった中での春闘ですから、そういう意味ではある意味存在意義もかけながら、作り出してきた変化を前に進めるという春闘として、賃上げにもこだわり、みんなで共同を広げて、春闘を闘っていきたいと思います。ぜひ全ての単産や地域のみなさんと一緒にこの春闘を通じて、確信がもてる年にしたいと思います。よろしくをお願いします。

労働相談一ヶ月～「PIP」について～

環境をビジネスとする会社に勤務する女性からの相談。会社は大学在学中に環境ボランティアに参加した男性が、卒業後「NPO」を立ち上げ、その後「会社」を立ち上げたという「青年実業家」が経営。相談の女性は、会社の秘書募集に応募、正社員として採用。採用後、2か月ほどで突然「君は向いていないからこの仕事をして」と総務関係の仕事に命じられる。仕事は何でも屋で、NPOと会社の仕事の区別なく、残業になる。2か月後、残業が多いと指摘されたが、仕事量は変わらず、残業しないと終わらないと伝えると、能力がないからだど叱責される。仕方なくサービス残業を行う。

NPOの仕事で手違いがあり苦情が来る。それを理由に始末書を書けと命じられ、書いて出す。ところが文章の表現を理由に、3人がかりで3時間に及ぶ叱責。再度書き直すと、また2時間の叱責がある。さらに1か月後、電話の対応が悪いと、始末書を命じられる。前回と同様の経過をたどるが、今度は、あんたはこの仕事に向いていないと再三指摘。辞めろとは言わないが、辞めさせようとしていることを強く感じる嫌がらせが続き、うつ診断を受けたこともあって退職。この相談は、現在係争中です。

正規職員を退職に追い込むために、始末書等を書かせ、その始末書の文言や内容にケチをつけて長時間叱責し、そのことを度々繰返し退職に追い込むという「PIP」という手法です。

この経営者は、勉強会に積極的に参加しています。恐らく「PIP」という手法を労働者を退職させる方法として学んだものと思われます。労働相談の内容に同様の話が増えていますので注意しましょう。

【中林】